陸連時報

2016 平成28年 8 月号

題字は平沼亮三（初代陸連会長）の書

目　　次

強化関連情報…… 182
　第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）日本代表選手
　第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）競歩日本代表選手メッセージ
　U20世界陸上競技選手権大会（2016／ビドゴシチ）日本代表選手
評議員会・理事会報告…… 186
第17回アジアジュニア陸上競技選手権大会報告…… 188
　（強化委員会強化育成部U23幹事　遠藤俊典／2020東京五輪プロジェクト幹事　岩瀧一生）
JAAFかけっこプロジェクト…… 190
国際陸上競技連盟（IAAF）競歩委員会報告…… 192
　（IAAF競歩委員会委員　今村文男（強化委員会競歩部長））
2016数字で見る陸上競技Vol.1　都道府県公認競技会数…… 193
大会観戦ガイド…… 194
陸協NEWS…… 196
事務局からのお知らせ…… 198

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものでありますが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）日本代表選手

1．選考手順

すでに公表されている日本代表選手選考要項（マラソン・競歩・トラック＆フィールド種目）に則り、第100回日本陸上競技選手権大会の終了後に、強化委員会にて強化委員会案を作成し、それを基に原案策定会議にて審議され、さらに理事会にて審議および承認された。なお、マラソンおよび競歩の代表選手については、すでに公表済みである。

3．今後の選考スケジュール

トラック＆フィールド種目の代表選手選考要項にあるように日本選手権終了後（2016年6月28日以降）の追加条件に該当する追加メンバーの選考は、7月11日までの結果による追加に関して、強化委員会、選考委員会にて審議され、7月12日以降のIAAF Invitationとあわせて発表される。

2．代表選手

第31回オリンピック競技大会（2016／リオデジャネイロ）　日本代表選手

【男子21名】　　2016年6月27日発表分

ブロック	名前	フリガナ		所属
短距離	桐生　祥秀	キリュウ・ヨシヒデ	埼　玉	東洋大学
	ケンブリッジ 飛鳥	ケンブリッジ・アスカ	東　京	ドーム
	山縣　亮太	ヤマガタ・リョウタ	東　京	SEIKO
	飯塚　翔太	イイヅカ・ショウタ	静　岡	ミズノ
	髙瀬　　慧	タカセ・ケイ	千　葉	富士通
	藤光　謙司	フジミツ・ケンジ	神奈川	ゼンリン
	ウォルシュ ジュリアン	ウォルシュ・ジュリアン	埼　玉	東洋大学
	金丸　祐三	カネマル・ユウゾウ	徳　島	大塚製薬
長距離	大迫　　傑	オオサコ・スグル	東　京	Nike ORPJT
	村山　紘太	ムラヤマ・コウタ	宮　崎	旭化成
	設楽　悠太	シタラ・ユウタ	埼　玉	Honda
障害	矢澤　　航	ヤザワ・ワタル	東　京	デサント
	野澤　啓佑	ノザワ・ケイスケ	山　梨	ミズノ
	松下　祐樹	マツシタ・ユウキ	神奈川	ミズノ
跳躍	長谷川大悟	ハセガワ・ダイゴ	神奈川	日立 ICT
	衛藤　　昂	エトウ・タカシ	三　重	AGF
	山本　聖途	ヤマモト・セイト	愛　知	トヨタ自動車
	荻田　大樹	オギタ・ヒロキ	香　川	ミズノ
投てき	新井　涼平	アライ・リョウヘイ	静　岡	スズキ浜松 AC
混成	中村　明彦	ナカムラ・アキヒコ	静　岡	スズキ浜松 AC
	右代　啓祐	ウシロ・ケイスケ	静　岡	スズキ浜松 AC

※ マラソン代表（3名）、競歩代表（6名）は発表済み

【女子11名】

ブロック	名前	フリガナ		所属
短距離	福島　千里	フクシマ・チサト	北海道	北海道ハイテク AC
長距離	尾西　美咲	オニシ・ミサキ	千　葉	積水化学
	鈴木亜由子	スズキ・アユコ	東　京	日本郵政グループ
	上原　美幸	ウエハラ・ミユキ	東　京	第一生命
	関根　花観	セキネ・ハナミ	東　京	日本郵政グループ
	高島　由香	タカシマ・ユカ	東　京	資生堂
	高見澤安珠	タカミザワ・アンジュ	愛　媛	松山大学
障害	久保倉里美	クボクラ・サトミ	新　潟	新潟アルビレックス RC
跳躍	甲斐　好美	カイ・コノミ	埼　玉	VOLVER
投てき	海老原有希	エビハラ・ユキ	静　岡	スズキ浜松 AC
競歩	岡田久美子	オカダ・クミコ	埼　玉	ビックカメラ

※ 女子マラソン（3名）は発表済み

第31回オリンピック競技大会(2016／リオデジャネイロ)

2016.4.18.現在

競歩日本代表選手

８月12日から21日までブラジル・リオデジャネイロで開催される第31回オリンピック競技大会の陸上競技。
４月18日に決定した競歩の日本代表選手を紹介致します。

※成績記録は大会当時のもの

【男子20kmW　3名】

髙橋　英輝（たかはし・えいき）
富士通・千葉　1992/11/19 生
花巻市立宮野目中学校→花巻北高校（岩手）→岩手大学→富士通

選考競技会成績：
2016日本選手権　20kmW　1位　1時間18分26秒
2015世界選手権　20kmW　47位　1時間28分30秒
オリンピック出場回数：初出場
自己ベスト：１時間18分03秒（2015 日本選手権）
主な成績：
2015年　世界選手権 20kmW　47位
2014年　ワールドカップ競歩　20kmW　9位
2013年　ユニバーシアード 20kmW 9位
〈大会に向けての抱負〉
昨年出場させていただいた世界陸上では力を発揮できず悔しい思いをしました。そういった経験も踏まえ、オリンピックでは力を出し切り、そのうえで順位がついて来ればと思います。
〈種目の魅力〉
20km競歩は、世界のトップ選手達のラスト5kmからの迫力あるラストスパートが魅力の一つです。私自身もそういった勝負に食らい付いていけるようがんばります！

松永　大介（まつなが・だいすけ）
東洋大学・神奈川
1995/03/24 生
横浜市立浜中中学校→横浜高校（神奈川）→東洋大学

選考競技会成績：
2016全日本競歩能美　20kmW　1位　1時間18分53秒
2016日本選手権　20kmW　失格
オリンピック出場回数：初登場
自己ベスト：1時間18分53秒（2016全日本競歩能美）
主な成績：
2015年　ユニバーシアード　20kmW　3位
2014年　世界ジュニア　10000mW　1位
2014年　ワールドカップ競歩　10kmW　2位
〈大会に向けての抱負〉
100%以上の力を発揮し、メダル獲得を目指します。
〈種目の魅力〉
どんなフォームが良くて、どんなフォームが悪いのか見比べてください。

藤澤　勇（ふじさわ・いさむ）
ALSOK・東京　1987/10/12 生
中野市立高社中学校→中野実業高校（長野）→山梨学院大学→ALSOK

選考競技会成績：
2016全日本競歩能美 20kmW
５位 1時間20分49秒
2016日本選手権　20kmW　２位　1時間18分45秒
2015世界選手権　20kmW　13位　1時間21分51秒
オリンピック出場回数：２大会連続２回目（2016・2012）
自己ベスト：１時間18分45秒（2016日本選手権）
主な成績：2015年　世界選手権　20kmW　13位
2014年　ワールドカップ競歩　20kmW　25位
2012年　オリンピック　20kmW　18位
〈大会に向けての抱負〉　今大会は、２大会連続の五輪出場となります。前回の経験を活かしメダル獲得を目指し頑張ってきたいと思います。また、2020年東京五輪に向けて日本の陸上競技の発展に貢献していけるよう競技力だけでなく日本のフェアプレーの精神も大事にして戦ってきたいと思います。
〈種目の魅力〉　競歩は、陸上競技の種目の中では、審判からフォームを判定される特殊な競技です。選手には、確実な歩き方とスピードでゴールを目指す者、失格になるかギリギリの歩きで勝利を目指す者など様々な戦法用いえます。歩きの限界に挑む競歩を是非ご覧ください。

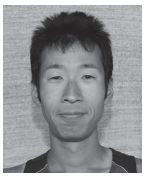
【男子50kmW ３名】

谷井　孝行（たにい・たかゆき）
自衛隊体育学校・埼玉
1983/02/14 生
滑川中学校→高岡向陵高校（富山）→日本大学→佐川急便（現SGHグループさがわ）→自衛隊体育学校

選考競技会成績：
2016日本選手権　50kmW　1位 3時間44分12秒
2016日本選手権　20kmW　6位 1時間21分23秒
2015世界選手権　50kmW　3位 3時間42分55秒
オリンピック出場回数：
４大会連続４回目（2016・2012・2008・2004）
自己ベスト：３時間40分19秒（2014アジア大会）
主な成績：
2015年　世界選手権　50kmW　３位
2013年　世界選手権　50kmW　９位
2011年　世界選手権　50kmW　９位
〈大会に向けての抱負〉
　ベストパフォーマンスでメダル獲得を目指します。
〈種目の魅力〉
　50kmは約４時間という長時間で競い合う種目です。
　失格者、途中棄権者も多くゴールまでの順位変動に目が離せません。選手達の最後まで諦めない粘り強い歩きに是非注目してください。

森岡　紘一朗
（もりおか・こういちろう）
富士通・千葉　1985/04/02 生
西諫早中学校→諫早高校（長崎）→順天堂大学→富士通

選考競技会成績：
2016日本選手権　20kmW　13位　1時間24分18秒
2015全日本50km競歩高畠　50kmW　1位　3時間44分27秒
オリンピック出場回数：
３大会連続３回目（2016・2012・2008）
自己ベスト：3時間43分14秒（2012オリンピック）
主な成績：
2014年　ワールドカップ競歩　20kmW　38位
2013年　世界選手権　50kmW　23位
2012年　オリンピック　50kmW　10位
〈大会に向けての抱負〉
　今大会は私自身3度目のオリンピックとなり、今までの経験を生かし、ロンドン五輪で出した自己記録を再度オリンピックで更新したいと思います。それが入賞、メダルにつながっていくのではないかと思います。
〈種目の魅力〉
　50kmという長い距離を速さだけではなく、歩型の正確さも求められます。世界のトップを競い合う選手の歩く姿はとても美しいので、ぜひ観てもらいたいです。



荒井　広宙（あらい・ひろおき）
自衛隊体育学校・埼玉
1988/05/18 生
小布施中学校→中野立命館高校［旧中野実業高校］（長野）→福井工業大学→石川陸協→北陸亀の井ホテル→自衛隊体育学校

選考競技会成績：
2016日本選手権　50kmW　２位　３時間44分47秒
2016日本選手権　20kmW　３位　１時間19分54秒
2015世界選手権　50kmW　４位　３時間43分44秒
オリンピック出場回数：初出場
自己ベスト：３時間40分20秒（2015日本選手権）
主な成績：
2015年　世界選手権　50kmW　４位
2013年　世界選手権　50kmW　11位
2011年　世界選手権　50kmW　10位
〈大会に向けての抱負〉
　オリンピックには初出場となりますが、入賞そしてメダル獲得を目標に頑張ります。
〈種目の魅力〉
　競歩は歩き方にルールがあり陸上競技で唯一失格のある種目です。選手同士また審判との戦いを観てください。

大会ウェブサイト
http://www.olympic.org/rio-2016-summer-olympics

U20世界陸上競技選手権大会(2016／ビドゴシチ)日本代表選手

男子（30名）

No.	種　目	氏　名	登録陸協	所　属	学　年
1	100m/4×100mR	竹田　一平	埼　玉	中央大学	2
2	100m/4×100mR	大嶋　健太	東　京	日本大学	1
3	200m/4×100mR	山下　　潤	福　島	筑波大学	1
4	200m/4×100mR	犬塚　　渉	静　岡	順天堂大学	1
5	400m/4×400mR	松清　和希	大　分	福岡大学	1
6	400m/4×400mR	北谷　直輝	兵　庫	神戸市科学技術高校	3
7	4×400mR	小渕　瑞樹	群　馬	東海大学	2
8	1500m	阪口　竜平	京　都	東海大学	1
9	5000m	遠藤　日向	福　島	石川高校	3
10	5000m	阿部　弘輝	福　島	明治大学	1
11	10000m	關　　颯人	長　野	東海大学	1
12	10000m	鬼塚　翔太	福　岡	東海大学	1
13	110mH	古谷　拓夢	神奈川	早稲田大学	2
14	110mH	平松　パプデンバ	東　京	日本大学	1
15	400mH/4×400mR	渡部　佳朗	福　島	城西大学	2
16	400mH/4×400mR	山本　竜大	千　葉	日本大学	1
17	3000mSC	荻野　太成	静　岡	神奈川大学	1
18	100000mW	川野　将虎	静　岡	御殿場南高校	3
19	100000mW	山本龍太郎	富　山	富山商業高校	3
20	走高跳	平松　祐司	京　都	筑波大学	2
21	走高跳	藤田渓太郎	大　阪	立命館大学	1
22	棒高跳	江島　雅紀	神奈川	荏田高校	3
23	棒高跳	大久保圭介	香　川	関西学院大学	1
24	走幅跳	足達　一馬	大　阪	関西学院大学	1
25	走幅跳/4×100mR	橋岡　優輝	東　京	八王子高校	3
26	三段跳	原田　睦希	大　阪	立命館大学	2
27	砲丸投/円盤投	幸長　慎一	徳　島	四国大学	1
28	円盤投	安藤　　夢	東　京	東海大学	2
29	やり投	佐道　隼矢	富　山	東海大学	2
30	やり投	池川　博史	兵　庫	滝川第二高校	3

女子（14名）

No.	種　目	氏　名	登録陸協	所　属	学　年
1	400m/400mH	石塚　晴子	大　阪	東大阪大学	1
2	3000m	樺沢和佳奈	群　馬	常磐高校	3
3	3000m	田中　希実	兵　庫	西脇工業高校	2
4	5000m	加世田梨花	千　葉	成田高校	3
5	5000m	矢田みくに	熊　本	ルーテル学院高校	2
6	100mH	大久保有梨	福　井	中央大学	2
7	100mH	田中　佑美	大　阪	関西大学第一高校	3
8	400mH	村上　瑞季	大　阪	東大阪大学敬愛高校	3
9	3000mSC	向井　智香	愛　知	名城大学	1
10	3000mSC	柴田　佑希	福　岡	北九州市立高校	3
11	10000mW	溝口友己歩	長　野	早稲田大学	1
12	砲丸投/円盤投	郡　菜々佳	大　阪	九州共立大学	1
14	やり投	北口　榛花	北海道	日本大学	1
13	やり投	山下実花子	京　都	九州共立大学	1

評議員会・理事会報告

第35回理事会

日時：2016年５月24日（火）
　　14時00分～16時00分

場所：小田急第一生命ビル　11階会議室

【議題】

〈協議事項〉

１．第5期事業報告・決算
２．第16回世界陸上競技選手権大会（2017／ロンドン）マラソン代表選手選考要項
３．評議員会の開催
４．2016年度競技会日程
５．熊本地震に対する地域活性化助成金の追加支援

〈報告事項〉

１．2016世界室内陸上競技選手権大会（ポートランド）報告
２．第22回世界ハーフマラソン選手権大会（2016／カーディフ）報告
３．2016世界競歩チーム選手権大会（ローマ）報告
４．第17回アジアジュニア陸上競技選手権大会（2016／ホーチミン）日本代表選手団
５．普及育成委員会から
・普及育成委員会が開催する各種事業について
・かけっこプロジェクトについて
・“日清食品カップ”全国小学生陸上競技交流大会ソフトボール投からジャベリックボール投への変更について
６．熊本地震復興支援のための募金活動報告

【議事内容】

理事総数30名中出席者26名にて、理事会の成立を風間事務局長が報告。横川会長が挨拶を行い、引き続き、議事進行に入る。

〈協議事項〉

１．第5期事業報告・決算

尾縣専務理事より事業報告について、小手川財務委員長より決算について、前島監事より監査報告について、それぞれ資料に基づき説明があり、ともに承認された。

（**資料１**及び本連盟WEBサイト
http://www.jaaf.or.jp/rikuren/参照）

２．第16回世界陸上競技選手権大会（2017／ロンドン）マラソン代表選手選考要項

麻場強化委員長より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。（**資料２**参照）

３．評議員会の開催

尾縣専務理事より、評議員会の開催について資料に基づき説明があり、定時評議員会として2016年６月16日14時からの開催が承認された。

４．2016年度競技会日程

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、主催競技会として、さいたま国際マラソンが2016年11月13日、日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走が2017年２月25日の日程が承認された。

５．熊本地震に対する地域活性化助成金の追加支援

尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、2016年４月14日以降、相次いで発生している熊本地震に対して、熊本陸上競技協会へ2016年度地域活性化助成金を150万円追加支援することが承認された。

資料1　公益財団法人日本陸上競技連盟　第5期　収支決算書（対前年度）
（2015年4月1日から2016年3月31日まで）

（単位：円）

科　目	第5期決算額	第4期決算額	増減
（1）経常収益			
1. 基本財産運用収益	675,068	6,441,866	△ 5,766,798
2. 登録料受入収益	25,701,400	24,978,600	722,800
3. 加盟金受入収益	4,700,000	4,700,000	0
4. 受取寄付金	25,300,000	0	25,300,000
5. 受取委託金・助成金	310,143,385	226,696,679	83,446,706
6. 事業収益	1,656,985,485	1,579,975,607	77,009,878
7. その他事業収益	56,499,507	54,274,316	2,225,191
8. 雑収益	4,306,769	5,080,883	△ 774,114
経常収益計	2,084,311,614	1,902,147,951	182,163,663
（2）経常費用			0
9. 事業費	1,834,186,265	1,721,954,728	112,231,537
10. 管理費	94,144,915	86,457,855	7,687,060
経常費用計	1,928,331,180	1,808,412,583	119,918,597
当期経常増減額	155,980,434	93,735,368	62,245,066
経常外費用計	△ 2,000,000	△ 16,480,000	14,480,000
当期正味財産増減額	153,980,434	77,255,368	76,725,066

〈報告事項〉

1．2016世界室内陸上競技選手権大会（ポートランド）報告

麻場強化委員長より資料に基づき、4名の代表選手のリザルトが報告された。

2．第22回世界ハーフマラソン選手権大会（2016／カーディフ）報告

麻場強化委員長より資料に基づき、リザルトの説明があり、女子が団体で銅メダルを獲得、男子が団体で5位入賞を果たしたことが報告された。

3．2016世界競歩チーム選手権大会（ローマ）報告

麻場強化委員長より資料に基づき、代表選手のリザルトが報告された。

4．第17回アジアジュニア陸上競技選手権大会（2016／ホーチミン）日本代表選手団

麻場強化委員長より資料に基づき、男子22名、女子17名の日本代表選手が報告された。

5．普及育成委員会から

繁田普及育成委員長より資料に基づき、普及育成委員会が2016年度に実施する各種事業、かけっこプロジェクトについて、及び“日清食品カップ”全国小学生陸上競技交流大会のソフトボール投からジャベリックボール投への種目変更について、報告された。

6．熊本地震復興支援のための募金活動報告

尾縣専務理事より資料に基づき、アスリート委員会が中心となり、第64回兵庫リレーカーニバル（兵庫県神戸市・4月24日）、第50回記念織田幹雄記念国際陸上競技大会（広島県広島市・4月29日）、2016日本選抜陸上和歌山大会（和歌山県和歌山市・4月30日、5月1日）、第32回静岡国際陸上競技大会（静岡県袋井市・5月3日）、セイコーゴールデングランプリ陸上2016川崎（神奈川県川崎市・5月8日）で募金活動を行い、1,101,630円が日本赤十字社「平成28年度熊本地震災害義援金」を通じ、被災者・被災地の援助・復興の支援などに使われることが報告された。

定時評議員会

日時：2016年6月16日（木）
13時57分～15時59分

場所：小田急第一生命ビル　11階会議室

【議題】

〈協議事項〉

1．第5期事業報告・決算

【議事内容】

評議員総数20名中出席者19名にて、評議員会の成立を風間事務局長が報告。中曽根評議員会議長が挨拶を行い、引き続き、議事進行に入る。

〈協議事項〉

1．第5期事業報告・決算

尾縣専務理事より事業報告について、小手川財務委員長より決算について、山田監事より監査報告について、それぞれ資料に基づき説明があり、ともに承認された。

（**資料1**及び本連盟WEBサイト
http://www.jaaf.or.jp/rikuren/参照）

資料2　第16回世界陸上競技選手権大会（2017／ロンドン）マラソン代表選手選考要項

1．編成方針

本大会でのメダル獲得を含めた複数入賞を目指す選手団編成とする。

2．選考競技会

（1）男子

1）第70回福岡国際マラソン選手権大会（2016年12月4日）
2）東京マラソン2017（2017年2月26日）
3）第72回びわ湖毎日マラソン大会（2017年3月5日）
4）第66回別府大分毎日マラソン大会（2017年2月5日）

（2）女子

1）第2回さいたま国際マラソン（2016年11月13日）
2）第36回大阪国際女子マラソン大会（2017年1月29日）
3）名古屋ウィメンズマラソン2017（2017年3月12日）
4）第30回記念北海道マラソン2016（2016年8月28日）

3．選考基準

編成方針に基づき、国際陸上競技連盟（以下、IAAF）が定める参加標準記録を有効期間中に満たした競技者の中から日本代表選手を選考する。

内定条件と、選考条件を下記の通り定める。

（1）内定条件

各選考競技会1）～3）で日本人1位の成績を収め、2016年1月1日から全ての選考競技会が終了するまでに、派遣設定記録を満たした競技者。

【派遣設定記録】

男子　2:07:00
女子　2:22:30

（2）選考条件

各選考競技会1）～3）で日本人3位以内、又は4）で日本人1位の競技者の中で、各選考競技会での記録、順位、レース展開、タイム差、気象条件等を総合的に勘案し、本大会で活躍が期待されると評価された競技者。

4．選考方法

（1）選考基準（1）による選考は、即時内定とする。
（2）選考基準（2）による選考は、選考基準（1）内定条件で、IAAFが定めるエントリー数の上限の枠を満たしてない場合、編成方針及び選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会で選考し、理事会において決定する。

5．その他

（1）参加標準記録及び派遣設定記録の有効期間は、2016年1月1日から全ての選考競技会が終了するまで。
（2）代表選手は、編成方針及び選考基準に則って選考されるが、その派遣人数はIAAFが定めるエントリー数の上限の枠を保証するものではない。
（3）選考基準（2）からの選考は、選考競技会に複数回出場した場合は、定められた期日での調整能力を重視するため、初回の選考競技会の成績と競技内容を評価する。ただし、第30回記念北海道マラソン2016に出場した女子選手については、その他選考競技会3大会のいずれか1大会に出場した場合、その大会の成績も評価の対象とする。
（4）本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合、代表を取消すことがある。
（5）代表選手の決定から本大会までの期間が長いことに配慮し、男女各1名の補欠を選考し、ファイナルエントリーまでに正選手に故障などが生じた場合は、補欠が正選手となり本大会に出場する。
（6）天災、その他の理由で選考競技会が中止になった場合は、代替の選考競技会を設定する場合がある。
（7）本大会は、2017年8月4日～8月13日までロンドン（イギリス）で開催される。

第17回アジアジュニア陸上競技選手権大会報告

強化委員会強化育成部U23幹事　遠藤俊典／2020東京五輪プロジェクト幹事　岩瀧一生

1．総合成績

金メダル13個、銀メダル10個、銅メダル4個の計27個のメダルを獲得し、メダルテーブルでは史上初めて中国を上回り第1位を獲得した（**表1**）。4－8位の入賞数は12であり、怪我の影響による1名の予選敗退とリレーの欠場とを除けば出場した全種目での入賞であった。ライバル国である中国にメダルテーブルで先行したことは、全カテゴリーを通じても初の快挙であったと考えられる。

全選手の結果をPBに対する達成率でみると、男子では97.8±3.8%、女子では95.4±3.2%（いずれも追い風参考記録を含む）であり、本大会で自己記録を更新した選手は男子3名（および自己タイ記録1名）、女子1名であった。おおまかにみると、男子と比較して女子ではやや達成率が低いこと、男子のフィールド種目の達成率が高いこと、および女子の中・長距離種目における達成率が低い傾向にあった。上述のように、総合的な成果は過去最高成績をあげているものの、達成率を客観的にみると高い値を示すことはできなかった。現地は高温多湿であったことが達成率の低さに影響していることは考えられるが、アジアのジュニアカテゴリーでは力の差が歴然としている男女の長距離種目を除けば、より良い色のメダルを獲得していくためには試合時おける記録の達成率を高めていくことの必要性が示された。これまでの報告にも示されているように、当該シーズンのベストや自己ベストに対する達成率は順位に強く影響することから、いかなる環境におかれても数%の達成率にこだわる取り組みが必要不可欠であろう。

本大会で特筆すべき結果の1つに、投てき陣の活躍があげられる。投てき種目はシニアにおいてもジュニアの世界大会レベルにおいても、参加標準記録に届かないことも多く、アジアレベルでの派遣を中心に底上げを図ってきた。本大会ではこれまで積み上げてきたものを成果として実らせることができたと考えられた。女子砲丸投の優勝をはじめとして、男子砲丸投および男子円盤投でU20日本新記録が誕生し、投てき種目のメダル獲得数は6個に至った。さらに、普段は8種競技を中心に行っている高校生を大抜擢した男子混成（10種）では、その高校生が金メダルを獲得する快挙を成し遂げた。惜しくもU20世界選手権の参加標準記録には届かなかったが、今後の10種競技の強化育成の明るい材料となる取り組みであったと考えられた。

2. 選考過程

ファイナルエントリー期日の最終決定通知が遅かったことに加えて、その期日が地区インカレや多くの各都道府県インターハイ県予選前に設定されてしまったことから、選考会議では数少ない選考競技会の結果をもとに選手選考を行わざるを得なかった。選考においては、「参加者全員がメダル獲得および入賞者となるように臨む」ことを目標とした。その上で、「大学生を中心とした派遣構成で個人種目での成果を出すことを目的とし、最重要競技会であるU20世界陸上選手権（ポーランド・ビドコシチで7月開催）での成功を念頭においた戦略的派遣を行う」ことを編成方針とした。さらに、アジアでの大会であることから各種目の育成と普及に配慮して、各ブロックの極端な人数差がないようにしながら、将来日本代表選手として活躍が期待される競技者を選出するとともに、「アジアからU20世界選手権、そして五輪へ」を意識した選考ポリシーを共有して選考した。なお、本大会は出国直前や期間中に高校総体県予選が重なっているケースがあったために、高校生で選出された選手には、高体連の先生方のご尽力のもとに県予選の免除策を講じていただいた。このことによって、種目によっては高校生の参加を促すことができ、編成方針で重要視していた「戦略的派遣」を達成することができた。

3. 現地の環境

本大会は、Thong Nhat Stadium（ベトナム・ホーチミン）で開催された。日中の気温は35－38度、湿度は70－80%であり、まさに高温多湿であった。期間中は14時－16時に一度スコールのような雨が降り、その後18時を過ぎて日が落ちていくと多少は過ごしやすく感じた。しかし、朝も日が昇る前からかなり暑いので、試合環境としては過酷であったといえる。

このような環境の中事前練習時に数名の長距離選手が熱中症症状に陥ってしまった。軽度だったためその後に大きな支障はなく済んだが、熱中症は病状がでてからでは遅いので、トレーニング内容、時間等も含め「日本と同じ」では対応できないことを監督およびドクタートレーナーから適時注意を促し、対応した。

宿泊は、郊外のホテルが用意された。日本選手団と同じホテルには、中国と台湾が入っていたが、生活面で特に影響はなかった。食事は3食ともビュッフェ形式で展開され、海外の生活としては申し分ないものであった。その他、スーパーマーケットやコンビニも徒歩圏内にあったため、基本的には生活に不自由を感じることはなかった。試合会場からホテルまでは大会側が用意したバスに乗車しておよそ20分程度であったが、渋滞時には倍の40分になってしまうため時間的な余裕をもって移動することが必要であった。しかし、事前練習時や大会期間中に、大会側が用意したシャトルバスは、実は一般的なシャトルバスではなく、バスの時間にホテルに宿泊しているチームから一定数以上の人数の申し込みがあった場合に、バスが稼働するという仕組みで運営されていた。つまり、日本チームが数名希望していたとしても、他国の希望がなければバスが動かないという事態に陥ってしまうのである。そのため、予定していたバスがこないことが多々あり、30分から1時間の待ち時間を過ごすことは少なくなかった。試合がはじまってからは複数種目に出場する選手のコンディショニングを優先した場合に、やむなくタクシーで移動することもあったが、タクシーは安全で安価なため、ストレスを

感じることはなかった。

以上のように、高温多湿の中で移動に若干の不便を感じることはあったが、宿泊、食事、周辺の環境などはパフォーマンスの発揮を阻害する要因となるものはあまり見当たらなかったといえる。

4．大会の運営状況

アジア諸国での開催といえば、トラブルがつきものであることが良く知られている。このことに柔軟に対応していかないと、持てる力を十分に発揮できなくなってしまう。試合前のミーティングにおいて、監督からこの点についての心構えや、現在の自分たちの置かれている状況、発揮すべきパフォーマンスの目標などが明確に示されたこと、百戦錬磨のコーチ陣による臨機応変で的確な対応が今回の史上最高成績を支えていることには疑いの余地はない。ここでは、大会の運営状況についていくつか報告することによって、「アジアではこのようなことは常識的に起こる」といった情報共有をさせていただきたい。

1）タイムテーブル、招集時間は大幅変更に変更されるので、常に最新の確かな情報を手に入れ、その変更を柔軟に受け入れるよう準備する。表彰式の時間、上述したバスの時間などもかなりルーズなので、すべての時間に余裕をもって行動する必要がある。2）試合会場は直前に準備される。今回は、投てきのサークルが試合前日に塗り替えられた。事前練習と本番ではサークルの状況が変わることもあることを念頭に置く。3）試合会場に用意されたウォーミングアップエリアは、出場国用のチームテントが両端に建てられた競技場前の駐車場のようなコンクリートスペースに40m程度のタータンの切れ端を約5レーン分敷いたエリアであった（両端はチームテントなので、実質使用可能なのは3レーン程度で時にはバイクが通ったりする）。午前と午後のセッションの間に試合会場は使用できるが、その時間は酷暑で日陰もほとんどない状況である。このような状況のため、ウォーミングアップエリアは大混雑しており、日本と海外とではそれを使用するマナーもかなり異なるので、安全にウォーミングアップを行うことが第一であることと、到底「日本で行ういつもどおり」のウォーミングアップはできないことから、その心構えと創意工夫によってウォーミングアップを行うことが必要である。4）試合時にはトラブルに見舞われることを想定しておく。例えば、男子200mの予選においては、日本選手のレーンの音が鳴らないというハプニングに見舞われた。選手自身のアピールも必要だが、コーチ・スタッフを含めてその場で直接抗議することが必要であった。

5．今後の課題

1）選手の生活環境適応について

食事と生活の適応については、ホテルでの生活環境が良く、時差も少なかったために比較的良好であったが、中には不都合を解消しきれていない選手もいた（持ち込んだ日本食しか食べられていないなど）。遠征時の生活については、その国によっても異なることから、それぞれのケースに順応することが必要である。なお、今回の派遣では、監督とコーチ陣の意向で、「現地での見聞を広めること」を派遣期間中の目標の1つとすることを提示していた。フライトの問題で、試合前の期間がやや長かったが、その時間を有効利用して単に試合だけを行うのではなく、ジュニア世代の競技者として人間的な成長の糧となるような遠征となるように各選手が「現地での研修」を行えていたようであった。安全が担保されている場合は、このようなアプローチは有効であると思われた。

2）各国におけるアジアジュニア選手権とU20世界選手権への派遣基準

ライバル国の中国は、前回のU20世界選手権への派遣にはかなりの戦略性が認められ、今回のアジアジュニア選手権においても派遣方法は独特であった。例えば、2名エントリーの内、1名は大学生年代、もう1名はユース年代を組み合わせているケースなどである。先述のように本大会への日本選手団においても、男子の混成競技をはじめとして、いくつかの戦略性をもって派遣することができた。このような取り組みから得られた成果は結果として、ジュニア世代の各競技者やコーチの目標や指針になっていくことから、ジュニア期におけるアジアと世界、そしてシニア期におけるアジアと世界をそれぞれの種目に応じて段階的・戦略的に捉えた選手選考とその結果としての強化育成を今後も推進してく必要があることを改めて認識した。

3）若手指導者の派遣

本大会の成果は、経験豊富なコーチ・スタッフ陣に支えられたところは大きい。指導者の質を高めていくために、大会派遣で得られる実体験は必要不可欠である。そのために、若手指導者を経験豊富な指導者との組み合わせで派遣することが有効であると感じた。

7月にはU20世界陸上選手権大会がポーランドで開催されます。東京五輪に向けた試金石となる戦いで再度、史上最高成績を達成し弾みをつけていきたいと考えています。競技者、コーチ、その他関係各位の皆さま、引き続きご協力をお願い申し上げます。

表1

RANK	COUNTRY	GOLD	SILVER	BRONZE
1	Japan	13	10	4
2	China	11	7	4
3	India	7	4	6

JAAF かけっこプロジェクト

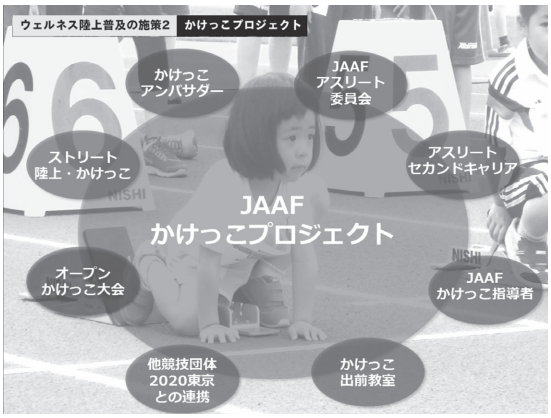
○「ウェルネス陸上」の提唱

日本陸上競技連盟は、2020年東京オリンピックのレガシーとしてオリンピックや世界陸上でのメダル獲得を最終目標とする「競技陸上」から、幅広い世代で健康維持やレクリエーションとして楽しめる「ウェルネス陸上」を新たな取り組みとして提唱しています。その具体的な取り組みとして市民ランナーのランニング環境整備を目的とした「ロードレースコミッション」の設立と、遊びから陸上競技の楽しさを体験できる「JAAFかけっこプロジェクト」を発足させました。

○JAAF かけっこプロジェクト

「JAAFかけっこプロジェクト」はは競技会のような競争主体ではなく、遊びを通じて陸上競技を楽しむことを目的に、「ストリートかけっこ」や「鬼ごっこ」など、より多くの人が身近に走れる環境を提供し、子どもの体力低下の問題に貢献して参ります。

短期的には誰もが参加できる「オープンかけっこ大会」の実施や、商業施設等競技場ではない場所でのかけっこイベント「ストリートかけっこ・陸上」の実施に向けて取り組み、中長期的にはトップアスリートのセカンドキャリアを視野に入れた「かけっこアンバサダー制度」や「かけっこ指導者制度」を発足させます。



都道府県陸協等との連携を深め、かけっこを通じて陸上競技の普及に取り組んで参ります。

○全国統一かけっこチャレンジ2016

本イベントは「オープンかけっこ大会」の一貫として、公認大会という位置づけではなく、子どもから大人まで誰もが気軽に参加できるかけっこ記録会として実施し、各会場で計測した記録から「全国かけっこランキング」を作成します。

会場は、全国約300の3種以上の公認競技場に公募をかけ、全国15会場から20会場の実施を予定しており、2020年には47都道府県で実施することを目標に取り組みます。

イベント名	全国統一かけっこチャレンジ 2016
主催	全国公共スポーツ施設指定管理者
	公益財団法人日本陸上競技連盟
開催期間	2016 年 9 月～ 2017 年 3 月末
後援（申請中）	スポーツ庁
協力	アシックスジャパン株式会社
開催場所	全国 15 ～ 20 ヶ所（予定）
参加対象	5 歳以上
参加費	大人：1100 円　子供（高校生まで）600 円
イベント内容	1．50m　100m タイムトライアル 2．かけっこ教室 3．世界記録体感コーナー 4．その他イベント
事務局	全国統一かけっこチャレンジ事務局

○「第100回 日本陸上競技選手権プレイベント　笑って！楽しく！かけっこ教室＆スペシャルトークショー」

JAAFかけっこプロジェクトの「ストリート陸上・かけっこ」の一貫として愛知県イオンモール常滑のイベントスペースに、20mの人工芝敷設し特設レーンを設置した。朝原宣治氏をゲスト講師に、お笑いタレントのパンサーが会場を盛り上げた。競技場ではないイベントの効果として陸上競技の経験の有無に関わらず、様々な人に対して「かけっこ」の機会を提供することができた。

【イベント概要】

日　　時：2016年6月11日（土）13：30～18：00
会　　場：イオンモール常滑サウスコート1階イベント広場
主　　催：日本陸上競技連盟
協　　力：山崎製パン株式会社、アシックスジャパン株式会社
企画運営：よしもとクリエイティブ・エージェンシー

●第1部「スペシャルトークショー＆かけっこ教室」
時　間：13：30～15：00
ゲスト：朝原宣治（大阪ガス）
Ｍ　Ｃ：パンサー（よしもとクリエイティブ・エージェンシー）
参加者：小学4年生～6年生20名（インターネット公募）

●第2部「JAAFかけっこ10mチャレンジ」
時　間：15：30～18：00
対象者：幼児・小学生
参加者：313名（当日参加）

国際陸上競技連盟(IAAF)競歩委員会報告

IAAF 競歩委員会委員 今村文男（強化委員会競歩部長）

世界競歩チーム選手権が開催されたイタリアのローマでIAAF競歩委員会会議が開催された。同会議の概要は以下の通りである。

日時：2016年５月９日（月）9：00～18：00

場所：イタリア・ローマ（ホテル シェラトン　パルコ　デメディチ）

議題：開会宣言（マウリシオ　ダミラノ委員長）/IAAFの現状および今後の展望/前回議事録（スペイン・バルセロナ2015年２月７日）および懸案事項の確認/女子50Km競歩/ロス オブ コンタクト電子検出システム/ピットレーンについて/IAAF競歩チャレンジ/IRJW育成と認定システム/IAAF World Athletics Series /ロシアドーピング問題/エリアレポート

◆ロス・オブ・コンタクト検出システム（更新情報）

研究開発プロジェクトの進捗状況と今後の予定について以下の報告があった。

・進捗状況：プロジェクトは2014年９月に始まり、ここまでの第１フェーズでは、ロス・オブ・コンタクトを実際の競技会及びトレーニングと同じ条件で検出する手法（システム）の検討・開発が行なわれた。開発されたシステムは、地面と足部の接触の有無を同定するための圧力センサーを内蔵した着脱型インソールなどからなる競技者用端末及び、競技者用端末から送信される個々の競技者情報を集計する中央管理端末によって構成される。
実験室内及びフィールドのテストが行われたが、信頼性及び正確性の点で競技者、コーチ、審判の３者のいずれにとってメリットとなる結果が得られた。

・今後の予定：開発の次の段階となる第２フェーズの期間は18ヶ月間を予定している。このフェーズでは、実用品の製造及びメーカーへの提案に向けたハード・ソフト一体のプロトタイプデザインの開発を行う。また、このフェーズにおいては、開発中のシステムに付随する特許申請を行う必要がある。2015年４月に、IAAF理事会は、第２フェーズの研究への助成支出を承認している。

◆ピットレーンのロード種目への導入

ピットレーンは、トラック種目における5000m競歩あるいは10000m競歩など、U18およびU20世代向けに、トラックで実施されてきたが、今大会の世界競歩チーム選手権において、ロード種目で、初めて導入された。今日までに2014年ユースオリンピック、2015年世界ユース選手権などトラック種目での実績があるが、ロードにおいては、審判の人数、配置、コース距離、ピットレーンの位置等は公平性の観点からトラック種目と同等になるよう応用するとなっている。そこで、委員会として、ローマでの実施を受け、競技運営やペナルティ時間について多くの時間を割いて議論した。

（１）世界競歩チーム選手権の状況

U20種目（男女とも10km）で実施され、ガイドラインでは、5000m まで：60秒、5000mから10000mまで：120秒のペナルティエリアに留まらなければならないとなっている。今大会において、実際のピットインは女子２名、男子３名の合計５名であった。また、120秒のピットイン後、４枚目の赤カードを受けずにフィニッシュしたのは男女各１名ずつであった。

このうち、男子10kmの１名は120秒のペナルティ後、47位・46分59秒でフィニッシュしたが、ペナルティタイムが60秒だった場合でも、42位・45分59秒だったこととなり、順位に大きな変化はないが、女子10kmの１名は17位・48分11秒でフィニッシュしており、ペナルティタイムが60秒であれば、８位・47分11秒でフィニッシュしていたことになる。そのため、ピットイン後に自身の技術に注意を払うことで、先頭集団近くで競うことができたものと考えられる。

また、男子50kmにおいては、３名１チームの団体戦において、国別対抗戦の有資格チームのメンバーが、レース後半にあいついで失格し、７チームしかフィニッシュできなかったことから、委員会としても同大会のシニア種目への導入を視野に入れながらペナルティ時間を検討することになった。

（２）ピットインタイムに対する検討

シニア種目を含めた10kmよりも長い距離のレースでピットレーンルールを適用する場合にはペナルティタイムが重要になる。

前IAAF理事のセザール・モレノ氏（メキシコ）からはペナルティタイムをつぎのように短縮する提案があった。5000m：30秒／10000m：1分／20km：２分／30km：３分／50km：５分

以上のタイムを距離に換算して考えると、20kmを１時間20分、50kmを3時間40分で歩く場合、①20km：１分で250mの差がつくため、2分では500mの差となる。②50km：１分で220mの差がつくため、５分では1100mの差となる。

以上の提案は以下の理由による。

失格の発生は以下の２種類に分けられると考えられる。

①スタート時点で技術的な問題を抱える競技者の場合、レース序盤から赤カードを受けて、ほとんどの場合、ピットレーンを出た後に４枚目の赤カードを受けることになる。

②スタート時点で技術的な問題はないものの、疲労によって技術を保てたくなる競技者の場合、レース終盤から赤カードを受け、ほとんどの場合、ピットレーンを出た後、フィニッシュまで到達することになる。

上記の②の競技者の場合、意図して定義に反した技術で歩いているわけではない。また、ルール上、競技者は赤カードが出される瞬間を知りえないことから、②の競技者に対して技術上の状況を知らせ、レース中の競り合いに加わり続けさせるためにペナティタイムの短縮を提案するものである。今後は、委員会として作業部会を立ち上げ検討していくことになった。

◆女子50km競歩

今回開催された世界競歩チーム選手権において、IAAF主催大会で初めて50kmへの女子の参加が認められた。委員会としても新種目として期待を寄せるが、出場者が１名であったことから、今後の普及について議論した。

現在、各国において実施されていないことから、単独国での開催ではなく、隣国で合同開催やパブリックマラソンなどと共催させるなど普及を促進させながらニューヒロインやパフォーマンスを期待していくこととなった。

◆IAAF競歩チャレンジ

現在、IAAF競歩チャレンジの１レースが、メキシコ北部のチワワ州フアレス市で開催されているが、同時期に同国ヌエボレオン州モンテレイ市からも開催要望が出ていることが報告された。また、合わせて、2020年世界競歩チーム選手権開催への立候補準備中であることも報告された。

2016数字で見る陸上競技Vol.1 都道府県公認競技会数

事　務　局

今号より、昨年に引き続き、シリーズ「数字で見る陸上競技」の連載を開始します。
Vol.1では、2016年6月25日現在の都道府県陸上競技協会公認競技会数を掲載します。

NO	陸協名	公認競技会数
1	北海道	224
2	青　森	71
3	岩　手	35
4	宮　城	49
5	秋　田	71
6	山　形	104
7	福　島	92
8	茨　城	70
9	栃　木	45
10	群　馬	116
11	埼　玉	79
12	千　葉	91
13	東　京	167
14	神奈川	153
15	山　梨	60
16	新　潟	131
17	富　山	48
18	石　川	105
19	福　井	53
20	長　野	125
21	静　岡	90
22	愛　知	139
23	岐　阜	71
24	三　重	76
25	滋　賀	46
26	京　都	95
27	大　阪	179
28	兵　庫	288
29	奈　良	63
30	和歌山	79
31	鳥　取	52
32	島　根	93
33	岡　山	84
34	広　島	160
35	山　口	77
36	徳　島	60
37	香　川	61
38	愛　媛	59
39	高　知	61
40	福　岡	115
41	佐　賀	44
42	長　崎	48
43	熊　本	28
44	大　分	41
45	宮　崎	75
46	鹿児島	45
47	沖　縄	40
合計		4158

大会観戦ガイド

2016.7.1時点

今年もジュニア・ユース世代の夏が始まります。目指せオリンピアン！若きアスリートたちの活躍を、ぜひ応援して下さい！

平成28年度　全国高等学校総合体育大会陸上競技大会
秩父宮賜杯　第69回全国高等学校陸上競技対校選手権大会

▼競技期日：７月29日（金）～８月２日（火）
総合開会式　７月28日（木）
陸上開始式　７月29日（金）

▼会場：シティライトスタジアム（岡山県総合グラウンド陸上競技場）
岡山市北区いずみ町2-1-11

▼アクセス：
〈徒歩〉JR岡山駅西口から約20分
〈バス〉JR岡山駅西口から約10分
※岡電バス22番のりば岡山理科大学行「岡山放送前」で下車
JR岡山駅東口から約15分
※岡電バス・中鉄バス7番のりば津高台団地行、国立病院行、免許センター行、「岡山大学筋」で下車

▼種目：
〈男子〉　21種目
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、110mハードル、400mハードル、3000m障害物、5000m競歩、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、八種競技
〈女子〉　17種目
100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、100mハードル、400mハードル、5000m競歩、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投、円盤投、やり投、七種競技

▼放映予定：
７月30日（土）15：20～16：30　NHK　Eテレ
７月31日（日）15：20～16：30　NHK　Eテレ

▼問い合わせ先：
平成28年度全国高等学校総合体育大会
岡山市実行委員会事務局　陸上競技担当
TEL：086-803-1616　FAX：086-803-1768
E-mail：okariku2016@city.okayama.jp
大会ホームページ
http://www.koukousoutai.com/2016soutai/

平成28年度　第51回全国高等学校
定時制通信制陸上競技大会

▼期日：８月11日（木）～14日（日）
開会式　８月11日（木）　16：00～
競技会　８月12日（金）　９：30～
８月13日（土）　９：30～
８月14日（日）　９：30～

▼会場：駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場
東京都世田谷区駒沢公園1-1

▼アクセス：
東急田園都市線「駒沢大学駅」下車、「公園口」の出口を出て、自由通りを南へ直進、「駒沢公園東口」から入場、陸上競技場（サービスセンター）まで、約15分。

▼種目：
〈男子〉　15種目
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、400mハードル、3000m障害物、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投
〈女子〉　11種目
100m、200m、400m、800m、3000m、100mハードル、

昨年度の大会より（女子4×100mR）

昨年度の大会より（女子100m）

4×100mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投、円盤投
▼問い合わせ先：
全国高等学校定時制通信制陸上競技大会事務局
（都立本所工業高等学校内）
TEL：070-6458-2364
▼大会ホームページ
http://www.mat.jp/~teitsu/

“日清食品カップ”
第32回全国小学生陸上競技交流大会

▼期日：8月20日（土）
開会式　08:30 ～
競技会　09:30 ～ 18:00
▼会場：神奈川県・日産スタジアム
神奈川県横浜市港北区小机町3300
▼アクセス：
JR新横浜駅から徒歩15分
地下鉄新横浜駅から徒歩12分
JR小机駅から徒歩7分
▼種目：
〈男子〉　8種目
6年生100m、5年生100m、80mハードル、走幅跳、走高跳、ジャベリック、4×100mリレー
〈女子〉　8種目
6年生100m、5年生100m、80mハードル、走幅跳、走高跳、ジャベリック、4×100mリレー
▼参加者：小学生5･6年生に該当する年齢で、各都道府県での選考会を経て選ばれた代表選手22名と指導者4名とする。
▼問い合わせ先：
日本陸上競技連盟
TEL03-5321-6580　FAX03-5321-6591
大会ホームページ
http://www.jaaf.or.jp/taikai/1375/

昨年度の大会より（男子６年100m優勝の森聖弥）

平成28度全国中学校体育大会
第43回全日本中学校陸上競技選手権大会

▼期日：8月21日（日）～ 24日（水）
開会式　8月21日（日）　14:30 ～ 15:20
競技会　8月22日（月）　09:30 ～ 17:50
8月23日（火）　09:30 ～ 17:50
8月24日（水）　09:30 ～ 16:00
閉会式　8月24日（水）　16:30 ～ 17:00
▼会場：松本平広域公園陸上競技場
長野市松本市今井3443
▼アクセス：
〈車、タクシー〉JR東日本・松本駅から車で約30分、塩尻駅から車で約20分、村井駅から車で約10分
〈バス〉松本バスターミナルにて、松本電鉄路線バス「朝日線」乗車「信州スカイパーク・体育センター」下車約30分
▼種目：
〈男子〉　13種目
100 m、200 m、400 m、800 m、1500 m、3000 m、110mハードル、4×100mリレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、砲丸投（5.000kg）、四種競技（110mハードル、砲丸投（4.000kg）、走高跳、400m）
〈女子〉　10種目
100m、200m、800m、1500m、100mハードル、4×100mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投（2.721kg）、四種競技（100mハードル、走高跳、砲丸投（2.721kg）、200m）
▼問い合わせ先：
（大会開催前）
第43回全日本中学校陸上競技選手権大会事3
（大会開催中）８月21日（月）～ 24日（水）
［昼間］松本平広域公園陸上競技場
TEL：0263-57-2211
［夜間］ホテルブエナビスタ
TEL：0263-37-0111
大会ホームページ
http://2016zenchu.nagano-rk.com

昨年度の大会より（女子100m優勝の町井愛海／北斗浜分中・北海道）

JAAF TOCHIGI 一般財団法人栃木陸上競技協会

〒321-0152　宇都宮市西川田5-4-18
コーポグランデ西川田駅前ビル103
TEL.028-612-8594　FAX.028-612-8549
http://www.jaaftochigi.jp/

2022年、２巡目開催される第77回国民体育大会に向けた「第77回国民体育大会栃木県競技力向上対策本部事務局」が設置され、各競技団体との連携の重視施策が始まるなど本格的に動き出しました。

本協会も、本県陸上界の発展と子供達の未来に向けて、強化指導体制の確立と各専門委員会組織の充実や財源等の確保が重点施策である。

特に、強化部が中心に、普及部・中体連陸上専門部・高体連陸上専門部との連携を深め、ジュニア育成・選手強化対策や指導者育成対策等を重視し、意欲的･積極的な強化指導体制の確立が必要である。

さらに、競技会運営の充実と審判員の高年齢化に伴い、審判部と連携し、大学生などの審判養成や各地域陸協・クラブ審判員に対して協力要請するなど一人でも多くの人材を確保し、審判育成が急務である。

また、2022年の本県開催国体の２年前、2020年に東京オリンピックが開催され、各国のキャンプ地として候補となり、慌ただしい毎日を送らせていただいております。

さて、７月から８月に開催される全国高校陸上選手権大会、関東中学校陸上選手権大会、全国中学校陸上選手権大会、関東陸上選手権大会、全国高校陸上選抜大会等、10月には、岩手国民体育大会、関東高校選抜新人大会、11月から12月は、関東・全国中学校男・女駅伝大会、関東・全国高等学校男・女駅伝大会、年明けには、全国都道府県対抗男・女駅伝大会等のビックレースが開催されます。

各大会において、本県代表選手の活躍が大変楽しみであり、多くの県民の人々に夢と感動を与えてくれることを大いに期待しております。

（文責：理事長　大谷津薫）

JAAF SAITAMA 一般財団法人埼玉陸上競技協会

〒362-0034　上尾市愛宕3-28-30
上尾運動公園陸上競技場内
TEL.048-771-4248　FAX.048-772-4566
http://sairiku.net/

平成28年度の埼玉県内の競技会ですが、５月21日～22日に第58回東日本実業団陸上競技選手権大会が熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で開催されました。

２日間共に天候にも恵まれ好記録が生まれました。男子100mで、山縣亮太選手（セイコー）が準決勝で10"08の大会新記録、オリンピック参加標準記録突破で優勝。また、同種目の予選でケンブリッジ飛鳥選手（ドーム）が10"10で自身初のオリンピック参加標準記録突破。男子400mHで、野澤啓佑選手（ミズノ）48"69の大会新記録、オリンピック参加標準記録突破で優勝、２位の杉町マハウ選手（日本ウェルネス）もオリンピック参加標準記録突破するなど、大会新記録が４つ、オリンピック参加標準記録を４人の選手が突破しました。

今大会には出場していませんが、県内出身のやり投の新井涼平（スズキ浜松ＡＣ）選手もセイコーゴールデングランプリ陸上2016川崎で84m41のオリンピック参加標準記録を突破していますので、日本選手権大会が楽しみです。

また、９月には第85回日本学生陸上競技対抗選手権大会が、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で開催されます。埼玉陸協としても好記録が出るように競技運営に協力したいと思います。

最後に来年のロンドン世界選手権女子マラソンの代表選考をかねて11月13日に行われる第２回さいたま国際マラソンですが、昨年11月に開催された第１回大会からコースを一部変更するほか、参加定員拡大を行うなど全国規模の大会を目指します。

コースは、スーパーアリーナの発着点こそ変更はありませんが、前回のルートを逆行するコースに変更し立体交差の部分を減らし、よりフラットになるように設定しました。

このほか、一般のフルマラソンの定員を前回の5000人から１万6000人まで拡大し、制限タイムも４時間から６時間に緩和します。

（文責：総務委員会　木村一也）

JAAF GUNMA 一般財団法人群馬陸上競技協会

〒370-0871　高崎市上豊岡町145-5　今井酒店　気付
TEL.027-345-7790　FAX.027-345-7791
http://gold.jaic.org/gunma/index.html

まずはじめに、群馬陸上競技協会　髙橋　勝則　競技運営委員長が、５月13日にご逝去されました。髙橋氏は、長年にわたり群馬陸協の競技運営委員長として務められました。各競技会の運営はもとより、群馬陸協の審判技術向上に多大なる功績を残されました。1999年の世界室内陸上競技選手権大会でも競技役員としてご活躍され、2004年の全日本中学校陸上競技選手権大会では、審判長を務められました。また、難関である日本陸上競技連盟JTO試験にも合格され、ここ数年は、日本陸連主催大会においてもJTOとして参加しご活躍されました。通夜・葬儀・告別式には、たくさんの皆様にご会葬いただきましてありがとうございました。紙面をお借りしまして深謝申し上げます。そして、髙橋　勝則　競技運営委員長のご冥福を心よりお祈りいたします。合掌

アジアジュニア陸上競技選手権において、小渕瑞樹選手（東海大学　勢多農林高卒）が、男子400mにおいて優勝しました。女子棒高跳では、諸田実咲選手（太田女子高）が２位。女子400mでは、岩田優奈選手（中央大学　新島学園高卒）が４位と活躍してくれました。関東高校陸上競技大会では11種目の優勝でした。特筆することは、男子800m以外の中長距離種目は、全て群馬県勢が制したことです。インターハイへの切符を手にした選手は、更に精進し岡山での活躍を期待します。

JAAF CHIBA 一般財団法人千葉陸上競技協会

〒263-0011　千葉市稲毛区天台町323
千葉県総合スポーツセンター　国際千葉駅伝事務局内
TEL.043-252-7311　FAX.043-252-7314
http://www.jaaf-chiba.jp/

はじめに、４月に熊本地方で震度７という大地震により甚大な被害にあわれた皆様にお見舞い申し上げるとともに、一刻も早く復興されますよう心よりお祈り申し上げます。

本協会は、４月に審判講習会、県記録会を開催し、順調にスタートいたしました。今後は、県選手権、クラブ対抗、小学生大会、国体最終選考会と続きます。今年度も関係の皆様の御支援をいただきながら、陸上競技の発展に努めてまいります。

皆様に長く愛されてきた青木半治杯国際千葉駅伝と千葉国際クロスカントリー大会の二つの国際大会の幕が、一昨年をもって降ろされたことは大変残念でした。しかし、その思いは、昨年の「国際千葉駅伝開催記念　都道府県対抗中学生選手選考会」、2016年度には「国際千葉駅伝開催記念　第１回U 13･ U 16Long－Distance　Run」として、また、千葉国際クロスカントリー大会については、「第1回全国中学生クロスカントリー選手権大会」となり、それぞれ新しい形で引き継がれます。両国際大会で培った競技運営、審判員育成、施設整備等を今年度も各大会等で生かしてまいります。

本年度は、７年ぶりの第89回関東陸上競技選手権大会（８月19日（金）～21日（日））が、千葉で開催されます。また、10月23日（日）には、ちばアクアラインマラソン2016が木更津市で実施されます。現在、大会開催に向けて準備に取り組んでおります。

つきましては、関東各県さらには全国から多くの皆様にお越しいただければ幸いです。

（文責：専務理事　髙木義雄）

陸協NEWS

JAAF TOKYO 公益財団法人東京陸上競技協会

〒160-0021　新宿区歌舞伎町1-28-3　武井ビル5F
TEL.03-3203-6123　FAX.03-5292-0196
http://www.toriku.or.jp/

毎年６月は財団法人として１年間の事業報告、決算の承認を受ける重要な時期であります。

スポーツ団体としても、大会が無事終わればよいとか、好記録が出ればよいとかいう前に健全な財政運営の結果を報告できなければなりません。27年度も東京陸上競技選手権を皮切りに主催大会６大会、共催、運営協力、後援、スポーツイベントの開催など200を超す事業（行事）をしてまいりました。また強い東京と言えるように和歌山国体での入賞を含め多くの選手が、海外、全国大会で好成績を収め、強化の成果も表れ「強い東京」と自信を持って言えるようになったと思います。財政でも公益法人として健全なる財政運営であったといえる27年度事業・決算となりました。

一方、10年間有明のビッグサイトフィニッシュのコースで開催していた東京マラソン大会が、東京マラソン2017のコースの一部変更の発表があり、フィニッシュが東京駅前となる走りやすいコースになると国内外から、注目を浴びており、主管する当協会としては首都を走る素晴らしい風が全国に届けとばかり期待が膨らんでいます。

国立競技場の解体により、加入団体、協力団体が開催する競技会の会場確保に今年も苦しんでおり、東京オリンピック・パラリンピックの開催が近づく頃には、各国の各競技団体がキャンプ地だ、練習会場だと、使用制限があり競技場の確保が更に難しくなることが予想されます。

常に、公益法人としての使命である「東京のスポーツ文化発展の為」を旗印に、多くの都民が陸上競技を通して健康で、明るく楽しい生活づくりに力を出せるよう各種のイベントの開催も視野に入れながら、2020年の東京大会で国民が一つになるよう努力したいと思います。

（文責：有澤政雄）

JAAF YAMANASHI 一般財団法人山梨陸上競技協会

〒400-0024　甲府市北口2-14-14　山梨文化会館東館内
TEL.055-251-4581　FAX.055-251-4581
http://yamanashitf.web.fc2.com/

今年の夏は４年に１度の祭典であるオリンピックイヤーで、情熱の国ブラジル（リオデジャネイロ）は何時にも増して、エキサイトし活気と感動を与えてくれることでしょう。

我々山梨の陸上界でも、リオをめざすアスリートがいる。山梨生まれ、山梨育ちの野澤啓佑選手（ミズノ）が400mハードラーとして大きな期待を背負って磨きをかけ、今ラストスパートをかけ出場を目指している。この文がでる頃にはこのチャンスをしっかりつかみ取っていることと思う。そして400mHファイナリストとしてメダルをめざしリオ・オリンピックでの活躍を願うところである。前回のロンドン大会では佐野夢加選手が女子400メートルリレーに出場し、山梨陸協初の女子短距離出場で新たな歴史を刻んでくれた。二大会連続の山梨県出身者の出場は山梨としての誇りであり、強化の自信にもつながる。また、リオ・パラリンピック走高跳においても過去４大会連続入賞し、２m02cmの日本記録を持っている鈴木徹選手が日本代表をねらっている。

四年後に迫った東京オリンピック・パラリンピックについても、少子化の中で競技者の確保は大変厳しいが、しっかり裾野を広げ、たくましく精神力のある賢い選手を育てるべく、山梨陸協として確固たるプランを持って、佐野選手、野澤選手、鈴木選手に続く山梨育ちの世界で戦えて活躍できる選手強化に総力を結集して団結力をもっていきたい。

（文責：専務理事　保坂一仁）

JAAF KANAGAWA 一般財団法人神奈川陸上競技協会

〒231-0012　横浜市中区相生町1-18　光南ビル５F-B
TEL.045-210-9660　FAX.045-210-9667
http://www.kanagawariku.org/

昨年、80周年記念式典を開催し、今年３月には記念誌を発刊いたしました。良き伝統を引継ぎながらも新しい神奈川陸上競技協会がスタートしました。

今年度は４月の記録会から始まり、５月８日に川崎市等々力陸上競技場でセイコーゴールデングランプリ陸上2016川崎が大会史上最多の23,500人の大観衆の中で開催されました。２種目での五輪派遣設定記録突破をはじめ、ハイレベルなパフォーマンスが続出したほか、男子棒高跳では江島雅紀選手（神奈川・荏田高校）が日本高校新記録を樹立しました。

一方、総務委員会女性部も15周年を迎えました。女性の競技者、指導者を対象とした実技講習会をはじめ、幅広く陸上競技に携わる様々な方々を対象に、毎年講習会（研修会）を実施しています。

昨年は、日本陸上競技連盟競技運営委員会　鈴木一弘委員長から「女性審判員の役割の需要性～東京オリンピックに向けて～」、国士舘大学　田原淳子教授から「オリンピックの原点から見たスポーツの未来」と題して講義をしていただき勉強会をしました。

本年度は、昨年度の講習会を経て、女性審判員の審判技術の向上をねらいとし、東京での競技会の視察を実施します。

今後も更なる女性競技者の活躍の一助となる取り組みを進めて参りたいと考えています。

（文責：総務委員　大場一子）

JAAF NIIGATA 一般財団法人新潟陸上競技協会

〒950-0933　新潟市中央区清五郎67-12
デンカビッグスワンスタジアム内
TEL.025-257-7636　FAX.025-257-7691
http://www.nrkk.net/

梅雨期に咲くあじさいの花が心を癒やしてくれる時となりました。各県の陸上競技協会の皆様には、ますますご盛栄のこととおよろこび申し上げます。

さて、新潟陸上競技協会では、今まで経験したことのない大会運営をいたしました。それは、６月４日（土）、６月５日（日）に2016ジャパンパラ陸上競技大会をはじめて主管させていただきました。この大会は、リオデジャネイロオリンピックの出場権を争うビッグゲームの運営とあり役員も緊張感を持ち大会を進め、多くの観客の中ですばらしい記録が樹立されて、大会を終了することができ安堵感で今、日々を過ごしています。これも公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会をはじめとする関係各位の皆様のご支援と感謝申し上げます。大会の様子を写真でお知らせします。また、９月17日からは、全日本マスターズ陸上競技大会が新潟のデンカビッグスワンスタジアムで開催されます。ぜひご来県いただきたくご案内申し上げます。

（文責：専務理事　巻口実）

事務局からのお知らせ

◇◆日本陸上競技連盟ウェブサイトでは、各種情報を公開しています！◆◇

アドレス http://www.jaaf.or.jp/fan/

「陸上ファンの方へ」の頁では、観戦に役立つ大会情報や選手名鑑、記録等。「競技者・審判・委員会の方へ」の頁では、競技会に参加するための資格等の情報、ルールブック・ハンドブック情報、登録の仕方等。「日本陸連について」の頁では、団体情報、委員会情報、出版物の紹介をしています。

◇◆陸上陸連公式アプリで陸上競技をもっと身近に！◆◇

日本陸連公式アプリがiOS、Androidで登場しています。
下記のコンテンツを掲載しており、随時アップデートを行っていく予定となっております。

◎トピックス
日本代表選手の発表や大会結果などの情報を随時配信！　お見逃しなく!!

◎大会情報
今年度開催される大会の情報をご確認いただけます。スケジュールをチェックして、是非会場にお越しください！

◎選手名鑑
選手のプロフィールや大会成績などが閲覧できます。
新たなお気に入り選手が見つかるかも!?

◎Athletics.tv
過去に行われた大会の動画を視聴できます。
大会の興奮をもう一度味わえます！

◎Facebook
Facebookの情報を閲覧できます。
イベント情報や大会情報などを随時配信中！

▼ダウンロードURLは下記からお願いします。
iOSは　https://itunes.apple.com/jp/app/jaaf-official/id980495987?mt=8
Androidは　https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.or.jaaf.apps

陸連時報編集委員

◇編集委員
横川　浩（陸連会長）
友永　義治（陸連副会長）
八木　雅夫（陸連副会長）
尾縣　貢（陸連専務理事）
麻場　一徳（陸連強化委員長）
風間　明（陸連事務局長）
牧野　豊（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者
大嶋　康弘
◇時報編集担当
繁田　進
石塚　浩
木越　清信
宮田　宏
高橋　祐哉
小川ちあき

陸連時報編集室
〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト http://www.jaaf.or.jp/
公式動画サイト http://japanathletics.tv/